

ふるさと歴史アラカルト

2人の志士のつながり

幕末の岩国で活躍したことで名高い人物の中に東沢瀉と南部五竹がいます。2人は岩国のために立ち上がった同志ですが、個人としてのつながりも深いものでした。今回は東と南部のつながりについて紹介します。

東沢瀉は天保3(1832)年、南部五竹は天保2(1831)年に岩国に生まれました。武士の学校・養老館で学んだ2人は、「三博士」に数えられるほど優秀でした。特に東は、江戸遊学を通して儒学のさまざまな考え方を知り、教説の理解だけでなく、実践的な考え方を重視し、南部をはじめ岩国の武士たちにもその重要性を説きました。そして慶応2(1866)年、長州藩と江戸幕府が交戦した四境戦争(第二次長州出兵)の際、軍の規則に縛られることに不満を抱く門下生たちの意を受けた東は、新しい軍隊として必死組を結成します。しかし、必死組の力に任せた行動をとがめられた東は、柱島に流罪となります。

南部も、旧来的な規則にとらわれな

い軍隊である建尚隊を結成するなど実践的に活動していましたが、世間を動揺させたとして、斬首に処されてしまいます。

明治2(1869)年に赦免された東は、保津の沢瀉塾で実践的な思考や姿勢を教えました。塾では、東の実子・敬治や南部の実子・保も学びました。また保が敬治の妹と結婚するなど、家系としても東家と南部家は結び付きを深めました。

明治24(1891)年に東が死去すると、敬治は東京で陽明学会を設立し、東らの思想や人となりを政界・経済界にも広めました。一方、山口で教員を続けた保は、東・南部の書跡を保管して郷里に残すなど、おのおのの手法で後世に彼らの活躍を伝えました。

そして、明治150年にあたる平成30年度中に、東・南部両家の資料が、各家から岩国徴古館に寄贈されました。つながりの深い両家の資料が期を同じくして集まったことには、歴史の中における奇縁を感じざるを得ません。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※江戸時代後期から大正時代に生きた藤田葆が記した『岩国沿革志』によると、東沢瀉・南部五竹・大草馨堂の3人が文学に優れていたため「三博士」と称されたという



写真…三層楼
東沢瀉が閉塾後に建てた
居宅。写真には東敬治・
南部保らが写る。

岩国市 人口・世帯

人口 132,052人【前月比 -119人】 男性 62,782人 女性 69,270人

世帯 65,602世帯【前月比 -60世帯】 ※外国人人口を含む(2021年2月1日現在)

交通事故発生件数

1月分事故件数 15件(15件) 死者数 2人(2人) 傷者数 16人(16人)

※高速道路発生分を除く。()内は2021年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。

お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337